

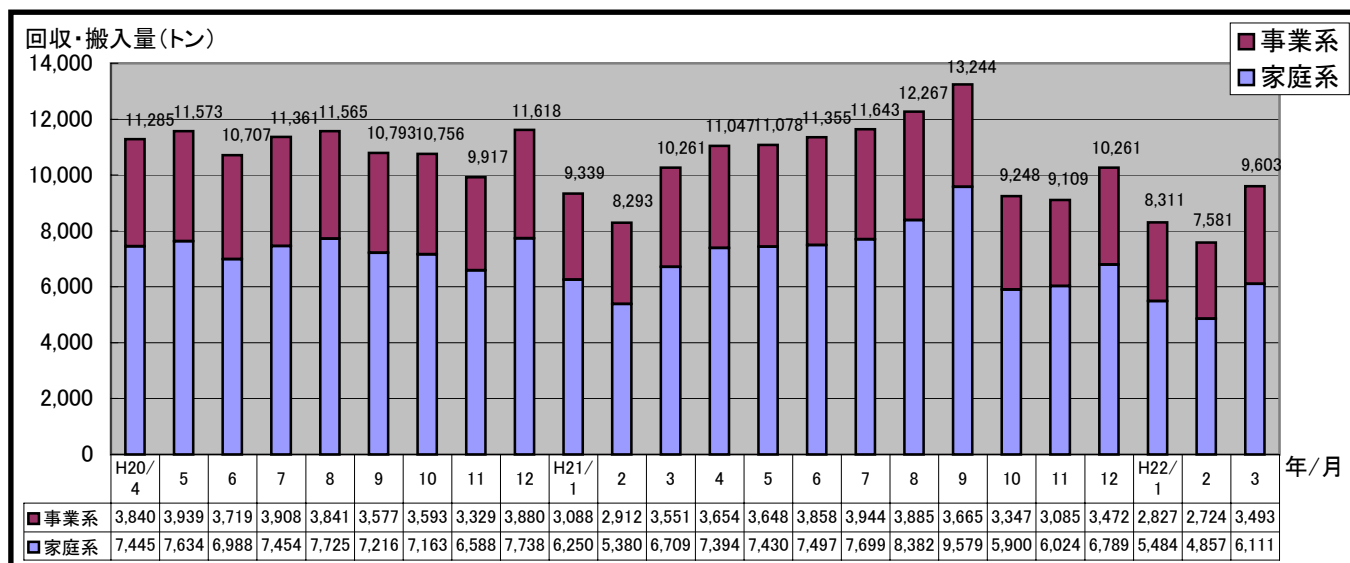
月別ごみ量の推移 (H20.4~H22.3)

資料 9

※本資料中のごみ量には、信州新町地区及び中条地区分は含まない。

環境部 生活環境課

1. 可燃ごみ・不燃ごみ・資源物総量(家庭系・事業系別。集団回収除く。)



・家庭系…ごみ集積所、サンデーリサイクル等拠点回収場所からの行政収集量
 ・事業系…事業者及び市民等による清掃センターへの直接搬入量
 (以下、同様)

<解説>

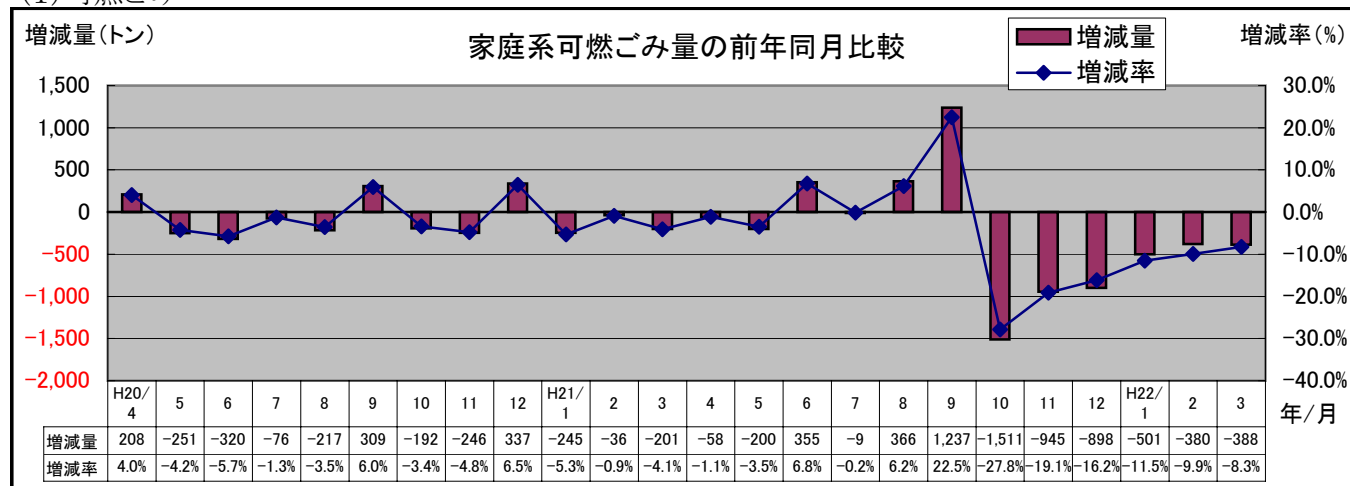
家庭系については時期的なごみ量の増減があるが、平成21年10月からの家庭ごみ処理手数料有料化制度の導入を控え、平成21年6月～9月にかけて家庭ごみの駆け込み的な排出があったと思われるため、前月比で4ヶ月連続で増加傾向となった。特に9月の家庭系9,579トンは月別ごみ量データが残っている平成2年度以降で最大の量となった。

平成21年10月～平成22年3月の6ヶ月間について前年同月と比較すると、家庭系で4,664トン、11.7%の減少、事業系で1,406トン、6.9%の減少、総量では6,070トン、10.1%の減少となった。

平成21年度(H21.4～H22.3)について前年度と比較すると、家庭系で1,145トン、1.4%の減少、事業系で1,577トン、3.7%の減少、総量では、2,721トン、2.1%の減少となった。

2. 家庭系可燃ごみ・不燃ごみ・資源物の増減推移

(1) 可燃ごみ

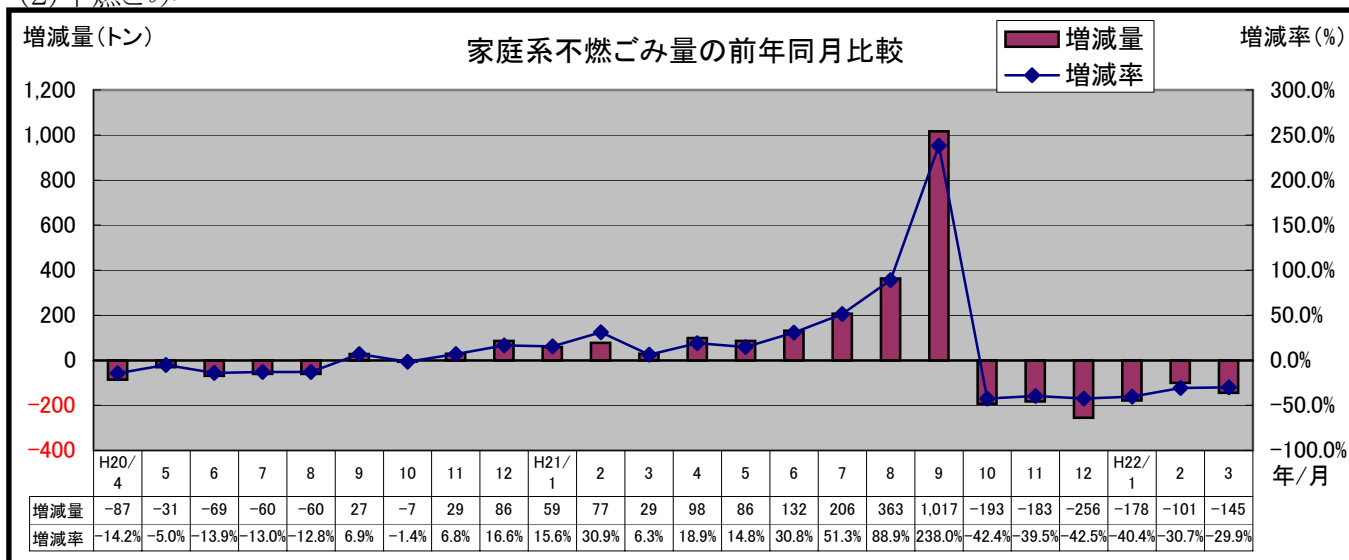


<解説>

家庭系の可燃ごみ量は、景気の低迷による消費量の減少、ごみ減量及び有料化制度住民説明会(平成20年7月～平成21年3月)の開催等により、前年同月を下回る月が多かったが、有料化制度前の平成21年6月～9月にかけて排出量が増加したため前年同月を上回った。特に9月は1,237トン(22.5%)の増加となった。

平成21年10月～平成22年3月の6ヶ月間では、24,172トン(前年28,794トン)回収し、前年同月比4,622トン、16.1%の減少となった。なお、有料化に併せ、10月から新たに資源物として分別回収を開始した剪定枝葉等(9月まで可燃ごみ)の回収量1,358トンを可燃ごみ回収量に加えて前年同月と比較すると、3,264トン、11.3%の減少となった。

(2) 不燃ごみ

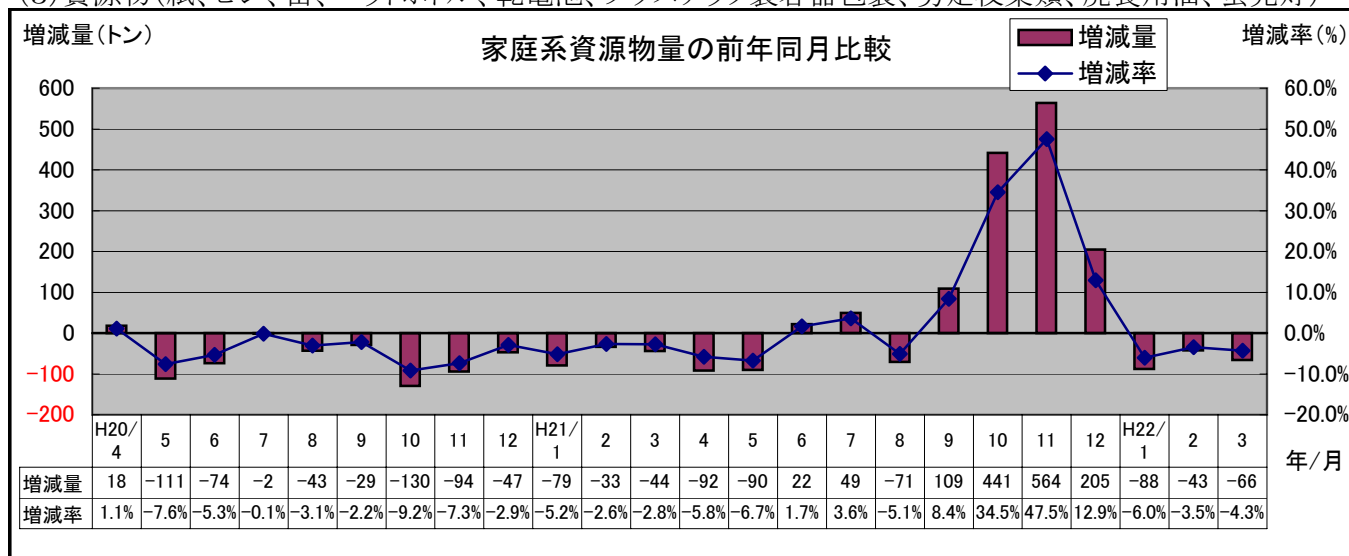


<解説>

家庭系不燃ごみ量については、平成20年9月以降、前年同月比で微増傾向が続いていたが、平成21年10月から導入された有料化制度を前に、可燃ごみと同様、平成21年6月～9月にかけて急激な増加となった。

平成21年10月～平成22年3月の6ヶ月間では、1,718トン(前年2,773トン)回収し、前年同月比1,055トン、38.1%の減少となった。

(3) 資源物(紙、ビン、缶、ペットボトル、乾電池、プラスチック製容器包装、剪定枝葉類、廃食用油、蛍光灯)



<解説>

※集団回収による資源物回収量は含まない。

家庭系資源物量は、集団資源回収の普及、景気の低迷等を要因とし年々減少傾向にあるが、資源物についても有料化制度前の6月から増加傾向となった。

平成21年10月～平成22年3月の6ヶ月間では、有料化制度の導入に併せて剪定枝葉等の分別収集が開始されたことから、資源物合計9,276トン(前年8,262トン)回収し、前年同月比1,013トン、12.3%の増加となった。(10月～3月分剪定枝葉等の収集・搬入量は以下のとおり)

3. 剪定枝葉類の収集・搬入量(平成21年10月～平成22年3月)

項目	10月	11月	12月	1月～3月	10月～3月合計
ごみ集積所からの収集量	417,220 kg	550,960 kg	261,700 kg	(収集休み)	1,229,880 kg
清掃センターへの直接搬入量	48,030 kg	33,040 kg	19,380 kg	27,420 kg	127,870 kg
収集搬入量合計	465,250 kg	584,000 kg	281,080 kg	27,420 kg	1,357,750 kg

<解説>

平成21年10月から家庭の庭木の剪定枝・草・葉等について、資源物として分別収集を開始した。現時点では年間収集量の予想はできないが、平成21年10月～平成22年3月の家庭系可燃ごみ量(24,172トン)と比較すると、従来の可燃ごみから5.3%が新たに資源化されたこととなる。